

科目名称	中国語 I ①～③		授業コード	10106181	
担当教員	呼 美蘭				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド授業）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学習成果）	中国語を“よむ”のに必須であるピンインを正しく発音出来るようにする。 正確で美しい発音が出来るようになる。				
授業の概要（内容）	中国語を初めて学習する学生を対象としたクラスである。中国語の発音の基礎となるピンインの発音練習から始める。ピンインとは中国語の読みを表すもので日本語の振り仮名に相当するもので、中国語を学習する上では大切なもの。ピンインの学習を約1ヶ月した後に文法事項の説明を始める。テキストは1年間使用し基本的な文法を学ぶ。そのためなるべく「中国語Ⅰ」・「中国語Ⅱ」と通年で履修するのが望ましい。				
授業計画	1：いわゆる中国語とは 2：ピンインの練習① 3：ピンインの練習② 4：ピンインの練習③ 5：ピンインの練習④ 6：第一課①人称代名詞・名前のたずねかた 7：第一課②トレーニング 8：第二課①動詞・疑問詞 9：第二課②トレーニング 10：第三課①指示詞・形容詞 11：第三課②トレーニング 12：第四課①数量詞・動詞「有」 13：第四課②トレーニング 14：第五課①存在の表現・年月日 14：第五課②トレーニング 15：まとめ				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業は教科書に沿って進めるので、テキストのCDを聴き、発音の練習をすること。 各課で学習した単語を単語帳などで整理する。				
評価方法	合計15回課題を出します。課題の提出回数やその出来具合（しっかり考えて真面目にやっているか）などを評価します。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出物は提出期間内に速やかにチェックし、コメントを書きます。				
使用テキスト	シンプルチャイニーズ東京・会話篇（西早稲田中国語部会）朝日出版社				
参考テキスト・URL					
各自準備物	テキストは必ず購入してください。				
実習費					
その他	予備登録の期間中にも必ず出席する。 特別な事情がないのに、5回以上課題を提出していない場合は成績評価を認めない。				

科目名称	中国語Ⅱ	授業コード	20006192
担当教員	呼 美蘭		
単位数	1/2	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2021
科目分類		開講学期	後期
関連資格			

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド形式）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	ピンインを正確に読める練習をさらに重ね、テキストで学習した文法事項を用いて簡単な短文を書く。授業の終わりには簡単な自己紹介を中国語で出来るようになる。
授業の概要（内容）	「中国語Ⅰ」を履修し、ピンインの学習を終えた学生を対象としたクラスである。前期に続いてテキストを中心に基本的な文法事項と読みの練習をする。
授業計画	1：前期の復習 2：第五課①存在：連動文 3：第五課②トレーニング 4：第六課①完了・変化の了・時刻 5：第六課②トレーニング 6：第七課①助動詞・前置詞 7：第七課②トレーニング 8：第八課①様態補語 9：第八課②トレーニング 10：第九課①比較の表現 11：第九課②トレーニング 12：第十課①時間の長さ・動作の回数 13：第十課②トレーニング 14：第十一課①動作の進行・持続の表現 15：第十一課②トレーニング
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業はテキストに沿って進めるので、テキストCDを自宅にて聞き、発音の練習をしてください。各課で学習した単語を整理する。
評価方法	授業は15回行います。課題は毎回出されるので、必ず提出してください。成績は課題で評価します。
課題・試験に対するフィードバックの方法	課題はクラスプロファイルにて提出してもらいます。課題についてのコメントは教師のコメント欄に毎回書き入れます。
使用テキスト	シンプルチャイニーズ東京・会話篇（西早稲田中国語部会）朝日出版社
参考テキスト・URL	
各自準備物	テキストは必ず購入してください。
実習費	
その他	予備登録の期間中にも必ず受講し、課題を提出してください。 正当な理由がなく課題を5回以上提出しなければ、成績評価の対象としません。

科目名称	ハングル I ①②③		授業コード	10106101	
担当教員	張 京花				
単位数	1	授業形態	遠隔	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格	ハングル能力検定試験 5 級				

対面・遠隔の別	遠隔：オンデマンド授業				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学習成果）	韓国の文字であるハングル文字の仕組みを学習し、ハングルの読み・書き、簡単な日常会話を駆使できるようになる。				
授業の概要（内容）	日本語の構造と非常に似ている韓国語の基本文型の反復練習を通して、初級の段階から「韓国語で話す」ことに慣れることを目指す。また、韓国人の生活習慣など社会・文化などにわたる韓国事情の紹介も行う。				
授業計画	<p>進度によって多少変更する場合があります。</p> <p>1：イントロダクション：「韓国語」とは</p> <p>2：第1課：文字と発音(1)単母音、初声・その1</p> <p>3：第1課：文字と発音(1)半母音、終声・その1</p> <p>4：第2課：文字と発音(1)初声・その2、有声音化</p> <p>5：第2課：文字と発音(2)半母音と二重母音、連音化</p> <p>6：第3課：文字と発音(3)初声・その3、初声・その4</p> <p>7：第3課：文字と発音(2)終声・その2、濃音化</p> <p>8：ここまでのまとめと復習</p> <p>9：第4課：「韓国人です」その1</p> <p>10：第4課：「韓国人です」その2</p> <p>11：第5課：「韓国語は専攻ではありません」その1</p> <p>12：第5課：「韓国語は専攻ではありません」その2</p> <p>13：第6課：「教室は階段の横にあります」その1</p> <p>14：第6課：「教室は階段の横にあります」その2</p> <p>15：前期学習内容のまとめ、(期末)小テスト</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	補充ウェブ教材で学習すること。				
評価方法	平常点（授業態度・授業参加度・宿題・課題）50%、期末課題 50%				
課題・試験に対するフィードバックの方法					
使用テキスト	『三訂版・韓国語の世界へ入門編』李潤玉朝日出版社				
参考テキスト・URL	https://text.asahipress.com/text-web/korean/sekainyumon/				
各自準備物					
実習費					
その他	成績評価は、講義に出された課題、期末課題などを中心に評価しております。課題の提出時点、課題の出来具合、正誤、取り組み具合など、総合的に評価しますので、必ず、課題を提出してください。				

科目名称	ハングルⅡ		授業コード	20006111	
担当教員	張 京花				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格	ハングル能力検定試験 5 級				

対面・遠隔の別	遠隔授業：オンデマンド授業				
遠隔の場合の主なツール	1. KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学習成果）	「ハングルⅠ」に続き、簡単な作文と日常会話ができるようになる。				
授業の概要（内容）	日本語との文法的比較を通じて、韓国語との相違点を理解し、作文能力のレベルアップや韓国の文化・社会・生活・価値観を知り、理解することを目指します。韓国のドラマ・歌・映画などを取り入れ、生き生きした韓国語が体験できるようにします。ハングルⅠを受講した学生を対象にします。				
授業計画	<p>進度によって多少変更する場合があります。</p> <p>1：第1回前期学習内容の復習</p> <p>2：第7課：「午後、時間大丈夫ですか」その1</p> <p>3：第7課：「午後、時間大丈夫ですか」その2</p> <p>4：第8課：「小学生にテコンドーを教えてください」その1</p> <p>5：第8課：「小学生にテコンドーを教えてください」その2</p> <p>6：第9課：「ふつう、6時に起きます」その1</p> <p>7：第9課：「ふつう、6時に起きます」その2</p> <p>8：ここまでのまとめと復習</p> <p>9：第10課：「野球がとても好きです」その1</p> <p>10：第10課：「野球がとても好きです」その2</p> <p>11：第11課：「昼ごはん、食べなかったんですか」その1</p> <p>12：第11課：「昼ごはん、食べなかったんですか」その2</p> <p>13：第12課：「春休みには何をするつもりですか」その1</p> <p>14：第12課：「春休みには何をするつもりですか」その2</p> <p>15：後期学習内容のまとめ、(期末課題)</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	補充ウェブ教材で学習すること。				
評価方法	平常点（授業態度・授業参加度・宿題・課題）50%、期末課題 50%				
課題・試験に対するフィードバックの方法					
使用テキスト	『三訂版・韓国語の世界へ入門編』李潤玉, 朝日出版社				
参考テキスト・URL	https://text.asahipress.com/text-web/korean/sekainyumon/				
各自準備物					
実習費					
その他	成績評価は、講義に出された課題、期末課題などを中心に評価しております。課題の提出時点、課題の出来具合、正誤、取り組み具合など、総合的に評価しますので、必ず、課題を提出してください。「ハングルⅠ」の単位修得が前提。				

科目名称	フランス語 I ①②③		授業コード	10106061	
担当教員	小宮 美奈				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔(オンデマンド)				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p>授業の目的：現在国際語という英語だが、18世紀から第1次世界大戦後までフランス語は外交用語としての地位を保っていた。フランス語はフランスだけでなくベルギー・スイス・カナダなどで話されており、多くの国際機関の公用語でもある。ファッション・グルメの用語に多くのフランス語が取り入れられていることはよく知られている。フランス語の学習を通して世界を異なる視点より眺め、楽しみながら異文化への適応力や教養を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>①フランス語の音声・文字に親しみフランス語の文の基本構造を理解する。 ②積極的に語彙を増やし実際に自分で文を組み立てられるようにする。 ③言葉を通してフランスおよびフランス語圏の文化や価値観を知る。 (実用フランス語技能検定5、4級程度)</p>				
授業の概要 (内容)	ストーリーを追いながら基本的なコミュニケーション能力が身につくよう指導する。授業では教科書の筆記問題の答え合わせによりゆっくりわかりやすく文法を説明する(事前学習型授業)と同時に、聞き取り練習にも取り組む。学期末にはミニレポート(調査学習)あり。				
授業計画	1：導入(身近なフランス語、世界の中のフランス語、発音と綴り字、アクセント記号、アルファベ) 2：第1課：紹介(名前の尋ね方・答え方、主語人称代名詞と動詞 ETRE、国籍・職業) 3：第1課：紹介(名詞・形容詞の変化、疑問文、挨拶する①出会いの挨拶) 4：第2課：待ち合わせ(動詞 AVOIR, 不定冠詞と定冠詞)小テスト(一部リアルタイム) 5：第2課：待ち合わせ(物・事の尋ね方、指示形容詞、挨拶する?別れの挨拶) 6：第3課：オデオン駅で(-ER 動詞の活用、数詞①60まで) 7：第3課：オデオン駅で(否定文、便利な ON, 動詞 FAIRE) 8：第3課：オデオン駅で(所有形容詞、疑問詞を伴う疑問文、時刻の表現) 9：第4課：カルチェ・ラタンで(動詞 ALLER, 前置詞 A/DE と定冠詞の結合形)小テスト 10：第4課：カルチェ・ラタンで(動詞 VENIR, 動詞の型のまとめ) 11：第4課：カルチェ・ラタンで(存在の表現、否定の DE) 12：第5課：ドバントン通り 25 番地(疑問形容詞、住まいと家具)小テスト 13：第5課：ドバントン通り 25 番地(直接目的語人称代名詞、数詞②100まで/序数詞) 14：第5課：ドバントン通り 25 番地(人称代名詞強勢形、場所の前置詞)ミニレポート 15：総括(第1課から第5課まで)まとめテスト(一部リアルタイム)				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	テキストの予習(音声を2回以上聴きポーズの間に発音してみる。練習問題を解く) テキストの復習(ディアログもポーズの間に練習をすること。文法事項の確認、練習問題の確認。POUR COMMUNIQUER と動詞の活用などの基礎文法事項は暗記することが望ましい。) 詳細は適宜授業内で指示する。				
評価方法	聞き取り練習や発音の知識の理解度20%、授業内テスト80%の割合で評価。 テストについては授業内で指示する。 (一部聞き取りをリアルタイムで実施する場合あり。)				
課題・試験に対するフィードバックの方法	難しかった課題および小テストは解説・講評する。				
使用テキスト	『ヌーヴォー・セラヴィ』倉方秀憲, Serge GIUNTA, Thierry TROUDE 著 早美出版社(CD付き) 教科書の音声ダウンロードは以下の通り。 { https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=34 }				
参考テキスト・URL	文法書、辞書については授業内で適宜指示する。 会話練習(ロールプレイ)用には教科書ほぼ準拠のDVDあり。 { https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=23 }				
各自準備物	PC・スマートフォン環境 詳細については授業内で適宜指示する。				
実習費					

その他	<p>課題の提出をもって出席とするので、必ず毎回期限内に提出すること。 テストの日程に留意すること。(提出期限が通常より早く、一部リアルタイムあり。) 授業計画の項目については多少前後する場合あり。 欠席は4回まで。 Bon courage !</p>
-----	--

科目名称	フランス語 I ④⑤		授業コード	10406061	
担当教員	南 コニー				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔 (リアルタイム)				
遠隔の場合の主なツール	zoom				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p>欧州言語共通参照枠で A I レベル (フランス語検定 3 級) に相当する基本的なフランス語日常会話を行う能力を身につける。</p> <p>1. 正確な発音を学ぶ! (音声学、言語のしくみを学ぶ) 実用的なコミュニケーションで不可欠なものの一つに正確な発音がある。 恥ずかしがらずに声に出して発音練習を丁寧にすることで、より美しく正確なフランス語が話せるようになる。</p> <p>2. 自分について相手に伝える! (実践) 会話表現の例を参考に自己紹介や趣味について話すことができる。 間違いを恐れずたくさん積極的に話すことで、近い将来の目標や自分の興味についても話すことができるようになる。</p> <p>3. 相手の話した内容を聞きとる! (内容理解) リスニング練習やペアワーク、グループワークを行うことで、相手の話を聞きとる能力を身につけ、内容を理解できるようにする。</p> <p>4. 会話の応用力を身につける! (技能) 会話において大事なものは、「答える力」と「質問力」。ディアログ (本文の会話) の後に、アクティヴィテ (実践会話) を練習することで、相手の言うことを理解する能力、会話をつなげる質問力を養う。</p> <p>5. フランス文化や社会を知る! (知識) フランスの首都パリは芸術の都と言われ、パリ・コレなどファッション界の最先端をいく国でもある。すでに日本語になっている料理用語やファッション用語の多くはフランス語由来のものが多く、フランス語を学び専攻と関連付けて学ぶことにより、より多角的な学習ができる。</p>				
授業の概要 (内容)	<p>この授業はフランス語の基本的な日常会話・コミュニケーションを学ぶ授業であり、実用的なフランス語運用能力の習得を目的としている。この授業で使用するテキストは『カフェ・フランス』 (朝日出版社) という大学生を対象としたテキストで、コミュニケーション・アプローチに基づき、学習者一人ひとりが楽しく授業に参加できるよう設定されている。</p> <p>このクラスでは、自らコミュニケーションを練習する場として、クラスへの積極的な参加が求められる。フランス語は世界で最も美しい言語の一つであり、英語と共に世界の公用語として国連など数多くの国際機関で使用されている。近年、CEFR 基準に基づき、世界の言語教育の場においては、<母国語+2 言語> 政策がグローバル・スタンダードとなりつつある。<母国語 (日本語) + 英語+フランス語> を習得することにより、自らの教養を深め、世界情勢についての多角的な情報の入手が可能になり、国際人としてより世界に活躍の場を広げられるようになるだろう。</p>				
授業計画	<p>1: Introduction: (オリエンテーション) 授業履修の注意事項、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。 テキスト 0 課 Introduction、綴りと発音の関係、アルファベ (pp.1-3)</p> <p>2: Jem'appelleDenis テキスト 1 課: Dialogue と Activites I、II、III (自己紹介、国籍)</p> <p>3: Jem'appelleDenis テキスト 1 課: ActivitesIV、V と Grammaireetexercices (数字 0-20、動詞 etre)</p> <p>4: Tuhabitesou? テキスト 2 課: Dialogue と Activites I、II (職業や住んでいるところ)</p> <p>5: Tuhabitesou? テキスト 2 課: ActivitesIII、IV と Grammaireetexercices (数字 21-30、身分)</p> <p>6: Unpanache, s'ilvousplait テキスト 3 課: Dialogue と Activites I、II (国籍と否定形)</p> <p>7: Unpanache, s'ilvousplait テキスト 3 課: ActivitesIII、IV、V と Grammaireetexercices (名詞の性と数、-er 動詞)</p> <p>8: 第 6 回~9 回の確認テスト、フランス映画鑑賞</p> <p>9: Tuasuneaddresse-mail? テキスト 4 課: Dialogue と Activites I、II (身の回りのもの、否定)</p> <p>10: Tuasuneaddresse-mail? テキスト 4 課: ActivitesIII、IV、V と Grammaireetexercices (動詞 avoir、否定の de、疑問文)</p> <p>11: C'estqui? テキスト 5 課: Dialogue と Activites I、II (人物描写、国名)</p> <p>12: C'estqui? テキスト 5 課: ActivitesIII と Grammaireetexercices (所有形容詞、疑問詞、形容詞の性と数)</p> <p>13: Qu'est-ceque' est? テキスト 6 課: Dialogue と Activites I、II 「これは何ですか?」</p> <p>14: Qu'est-ceque' est? テキスト 6 課: ActivitesIII と Grammaireetexercices (定冠詞、Qu'est-ceque...? 前置詞)</p> <p>15: 総復習、フランス映画鑑賞</p>				
実務経験のある教員					

授業時間外学習	フランス語は綴りと発音の関係が決まっているので、そのパターンを覚える必要がある。 それを踏まえた上で、学習した発音の練習を十分にすること。 尚、収録された音声及び映像は以下のサイトにアクセスすることにより自由に利用できるため、復習や自宅学習に活用すること。 http://text.asahipress.com/text-web/france/cafefrançais/index.html
評価方法	1. 全15回の授業のうち10回以上の授業に出席しなければ単位は認めない。 2. 定期試験を行う(100点満点中50点分)。 3. 定期試験と以下の小テストの総合点(100点満点中50点分)で評価する。 2課分の小テスト5点×3回=15点アクティビティでのパフォーマンス5点×7回=35点 また評価がSとAの人数の割合は、合格者(つまり評価C以上)全体の30%程度とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業中の小テストは点数をつけてその場で返却し、レポート等はコメント等添削を加えて返却。
使用テキスト	ニコラ・ガイヤール他著、『カフェ・フランセ』、朝日出版社、2400円+税
参考テキスト・URL	適宜プリント配布
各自準備物	教科書、筆記用具、辞書
実習費	
その他	1. 小テストの内容は授業中に指示する(単語テスト、作文、発音テスト等) 2. 遅刻や欠席がないようにすること 3. 授業中の私語、飲食、携帯の使用は禁止 4. テキスト、辞書、筆記用具を持参すること

科目名称	フランス語Ⅱ ①④		授業コード	10106071	
担当教員	南 コニー				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔（リアルタイム）
遠隔の場合の主なツール	Zoom
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>欧州言語共通参照枠でA1レベル（フランス語検定3級）に相当する基本的なフランス語日常会話を行う能力を身につける。</p> <p>1. 正確な発音を学ぶ！（音声学、言語のしくみを学ぶ） 実用的なコミュニケーションで不可欠なものの一つに正確な発音がある。 恥ずかしがらずに声に出して発音練習を丁寧にすることで、より美しく正確なフランス語が話せるようになる。</p> <p>2. 自分について相手に伝える！（実践） 会話表現の例を参考に自己紹介や趣味について話すことができる。 間違いを恐れずたくさん積極的に話すことで、近い将来の目標や自分の興味についても話すことができるようになる。</p> <p>3. 相手の話した内容を聞きとる！（内容理解） リスニング練習やペアワーク、グループワークを行うことで、相手の話を聞きとる能力を身につけ、内容を理解できるようにする。</p> <p>4. 会話の応用力を身につける！（技能） 会話において大事なものは、「答える力」と「質問力」。ディアログ（本文の会話）の後に、アクティヴィテ（実践会話）を練習することで、相手の言うことを理解する能力、会話をつなげる質問力を養う。</p> <p>5. フランス文化や社会を知る！（知識） フランスの首都パリは芸術の都と言われ、パリ・コレなどファッション界の最先端をいく国でもある。すでに日本語になっている料理用語やファッション用語の多くはフランス語由来のものが多く、フランス語を学び専攻と関連付けて学ぶことにより、より多角的な学習ができる。</p>
授業の概要（内容）	<p>この授業はフランス語の基本的な日常会話・コミュニケーションを学ぶ授業であり、実用的なフランス語運用能力の習得を目的としている。この授業で使用するテキストは『カフェ・フランス』（朝日出版社）という大学生を対象としたテキストで、コミュニケーション・アプローチに基づき、学習者一人ひとりが楽しく授業に参加できるよう設定されている。</p> <p>このクラスでは、自らコミュニケーションを練習する場として、クラスへの積極的な参加が求められる。</p> <p>フランス語は世界で最も美しい言語の一つであり、英語と共に世界の公用語として国連など数多くの国際機関で使用されている。近年、CEFR基準に基づき、世界の言語教育の場においては、＜母国語+2言語＞政策がグローバル・スタンダードとなりつつある。＜母国語（日本語）+英語+フランス語＞を習得することにより、自らの教養を深め、世界情勢についての多角的な情報の入手が可能になり、国際人としてより世界に活躍の場を広げられるようになるだろう。</p>
授業計画	<p>1：第7課 J'adore?a 定冠詞、好き嫌いの程度を言う</p> <p>2：第7課 J'adore?a 形容詞の性数一致、Ilya</p> <p>3：第8課 J'aime beaucoup votre tee-shirt! 比較級</p> <p>4：第9課 Jefaisdufootball! 部分冠詞、中世代名詞 en</p> <p>5：第9課 Jefaisdufootball! si と non 動詞 prendre, faire</p> <p>6：第7～9課の復習、フランス映画</p> <p>7：第10課 Onyva! 動詞 aller, venir, mettre, vouloir</p> <p>8：第10課、11課 非人称構文、代名動詞</p> <p>9：第11課、12課 Tum'invites? 目的語人称代名詞</p> <p>10：第12課 疑問詞、pourquoi, quand</p> <p>11：第13課 複合過去、半過去</p> <p>12：第13課、14課 複合過去（2）</p> <p>13：第14課、15課 Qu'est-ce que tu as fait hier? 主語代名詞 on</p> <p>14：第15課 Tu vas manquer! 近接未来、近接過去</p> <p>15：第15課、10～15課 総復習</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	<p>フランス語は綴りと発音の関係が決まっているので、そのパターンを覚える必要がある。</p> <p>それを踏まえた上で、学習した発音の練習を十分にすること。</p> <p>尚、収録された音声及び映像は以下のサイトにアクセスすることにより自由に利用できる。復習や自宅学習に活用すること。</p> <p>http://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html</p>

評価方法	<p>1. 全 15 回の授業のうち 10 回以上の授業に出席しなければ単位は認めない。</p> <p>2. 定期試験を行う (100 点満点中 50 点分)。</p> <p>3. 定期試験と以下の小テストの総合点 (100 点満点中 50 点分) で評価する。</p> <p>2 課分の小テスト 5 点×3 回=15 点アクティビティでのパフォーマンス 5 点×7 回=35 点 また評価が S と A の人数の割合は、合格者 (つまり評価 C 以上) 全体の 30%程度とする。</p>
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業中の小テストは点数をつけてその場で返却し、レポート等はコメント等添削を加えて返却。
使用テキスト	ニコラ・ガイヤール他著、『カフェ・フランセ』、朝日出版社、2400 円+税
参考テキスト・URL	適宜プリント配布
各自準備物	教科書、筆記用具、辞書
実習費	
その他	<p>1. 小テストの内容は授業中に指示する(単語テスト、作文、発音テスト等)</p> <p>2. 遅刻や欠席がないようにすること</p> <p>3. 授業中の私語、飲食、携帯の使用は禁止</p> <p>4. テキスト、辞書、筆記用具を持参すること</p> <p>5. 「フランス語 I」の単位修得が前提</p>

科目名称	フランス語Ⅱ ②③		授業コード	20206071	
担当教員	小宮 美奈				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	混合（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>授業の目的：現在国際語という英語だが、18世紀から第一次世界大戦後までフランス語は外交用語としての地位を保っていた。フランス語はフランスだけでなくベルギー・スイス・カナダなどで話されており、多くの国際機関の公用語でもある。ファッション・グルメの用語に多くのフランス語が取り入れられていることはよく知られている。フランス語の学習を通して世界を異なる視点より眺め、楽しみながら異文化への適応力や教養を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>①フランス語の音声・文字に親しみフランス語の文の基本構造を理解する。 ②積極的に語彙を増やし実際に自分で文を組み立てられるようにする。 ③言葉を通してフランスおよびフランス語圏の文化や価値観を知る。 (実用フランス語技能検定4、3級程度)</p>				
授業の概要（内容）	ストーリーを追いながら基本的なコミュニケーション能力が身につくよう指導する。授業では問題の答え合わせによりゆっくりわかりやすく文法を説明する（事前学習型授業）と同時に、聞き取り練習にも取り組む。学期末にはミニレポート（調査学習）あり。				
授業計画	1：第6課：ドミニク・ギャロパンの家で（命令形）自己紹介の復習 2：第6課：ドミニク・ギャロパンの家で（数量表現、部分冠詞）よく使う動詞の学習 3：第6課：ドミニク・ギャロパンの家で（食料品、中性代名詞 EN, すずめるなどの表現） 4：第7課：インタビュー（第1部-間接目的語人称代名詞）小テスト(一部リアルタイム) 5：第7課：インタビュー（第1部-部分冠詞の解説、中性代名詞 Y と EN, 12ヶ月） 6：第7課：インタビュー（第1部-趣味・余暇について、よく使う動詞の活用・表現） 7：第8課：インタビュー（第2部-複合過去形、過去分詞、助動詞 ETRE を用いる自動詞） 8：第8課：インタビュー（第2部-近接過去、国、時の副詞）仏語圏、小テスト(一部リアルタイム) 9：第8課：インタビュー（第2部-国名の使い方、励ましなどの表現） 10：第9課：レストランで（命令形と目的語人称代名詞）天候について 11：第9課：レストランで（近接未来、身体/体調について） 12：第9課：レストランで（代名動詞①導入、誘いの表現など）小テスト(一部リアルタイム) 13：第10課：セラヴィ（代名動詞?解説、代名動詞の命令形）調査学習 14：第10課：セラヴィ（代名動詞の複合過去、依頼の表現とその答え方） 15：総括（題6課から第10課）まとめテスト(一部リアルタイム)				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	テキストの予習（音声をも2回以上聴きポーズの間に発音してみる。練習問題を解く） テキストの復習（ディアログもポーズの間に練習すること。文法事項の確認、練習問題の確認。 POUR COMMUNIQUER と動詞の活用などの基礎文法事項は暗記することが望ましい。） 詳細は適宜授業内で指示する。				
評価方法	聞き取り練習や発音の知識の理解度、フランス語での受け答え 20%、筆記テスト 80%の割合で評価。 テストについては授業内で指示する。 (聞き取り・ディクテ、質疑応答などをリアルタイムで実施する場合あり。)				
課題・試験に対するフィードバックの方法	難しかった課題及び小テストは解説・講評する。				
使用テキスト	『ヌーヴォー・セラヴィ』倉方秀憲、Serge GIUNTA、Thierry TROUDE 著 早美出版社（CD付き） 音声ダウンロードは以下の通り。 { https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=34 }				
参考テキスト・URL	文法書・辞書については授業内で適宜指示する。 会話練習(ロールプレイ)用には教科書ほぼ準拠のDVDもあり。 { https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=23 }				
各自準備物	PC・スマートフォン環境(特に音声の聞き取りが必ずできるもの) 仏和辞典、和仏辞典 詳細については授業内で適宜指示する。				
実習費					

その他	<p>「フランス語 I」の単位修得が前提。 課題の提出をもって出席の代わりとするので、毎回必ず期限内に提出すること。 テストの日程に留意すること。(提出期限が通常より早く、一部リアルタイムもあり。) 授業計画の項目については多少前後する場合あり。 欠席は4回まで。 Bonne continuation!</p>
-----	--

科目名称	ドイツ語 I ①～③		授業コード	10106280	
担当教員	杉林 周陽				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル、OneDrive が基本だが、場合によっては Teams を使用することもある。
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	ドイツ語の文字と発音、及び文法の基本を理解する。日常会話で用いる挨拶などの表現を身につける。簡単なドイツ語文を作成できるようになる。自己紹介をドイツ語でできるようになる。
授業の概要（内容）	ドイツ語を始めて学ぶ学生を対象とする。ドイツ語におけるアルファベットの発音と読み方を学び、文章を読んていきながら動詞の人称変化や冠詞の格変化といった基礎的な文法内容を確認していく。この過程においてドイツ語の語感を養い、同時に挨拶などの簡単な表現を身につけてもらうことも目標とする。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。
授業計画	1：アルファベットと発音 2：人称代名詞と不定詞・動詞の現在人称変化 3：定動詞の位置・語順 4：sein の現在人称変化 5：名詞の性 6：名詞の格 7：冠詞の変化 8：haben の現在人称変化 9：名詞の複数形、男性弱変化名詞と例外的な名詞 10：人称代名詞の 3 格・4 格 11：不規則動詞の現在人称変化 12：命令形 13：不定冠詞類（所有冠詞・否定冠詞） 14：定冠詞類 15：まとめと授業内テスト
実務経験のある教員	
授業時間外学習	次の授業で読むことになるドイツ語の文章について、予習として付属の CD を聴き、少なくとも一読はしておくこと。その際、必ず繰り返し「音読」に努めること。 また復習として、授業で読んだ文章の発音、及び単語・文章の意味、文法項目について復習しておくこと。加えて、返却された課題、または小テストについても、必ず間違えていたところを確認すること。
評価方法	最終試験 50%、及び提出課題の内容を 50%として評価する。ただし最終試験の実施が困難である場合には提出課題のみで評価をすることがある。 課題の未提出回数が提出回数全体の 1/3 を超える場合には E 評価とする。また提出課題も成績評価に加えるため、未提出回数が増えれば増えるほど、単位の認定が難しくなることは承知しておいてもらいたい。 なお、期限を過ぎた課題提出は一切認めないので注意すること。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、その次の授業の開始時に返却する。その際、疑問・質問が書かれている場合に関しては、それに対する回答も加える。
使用テキスト	中村修ほか『つながるドイツ語みっとりべ』（朝日出版社）
参考テキスト・URL	独話辞書
各自準備物	
実習費	
その他	語学力は学習時間に比例して伸びていくものである。そのため積極的な授業参加を望む。 語学学習に苦勞はつきものであるが、できるだけ楽しくドイツ語を学んでいく機会を提供したい。

科目名称	ドイツ語Ⅱ		授業コード	20006291	
担当教員	杉林 周陽				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル、OneDrive が基本だが、場合によっては Teams を使用することもある。				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学習成果）	助動詞などを用いる際の文の構造を知る。ドイツ語圏文化の特質を理解する。 日常会話上のより多様な初歩的表現を用い、身の回りの出来事を表現することができる。				
授業の概要（内容）	前置詞や助動詞といった文法を確認する。この過程においてドイツ語の語感をさらに磨き、より多くの日常生活に必要な表現を身につけてもらうことも目標とする。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。				
授業計画	1：ドイツ語Ⅰの復習 2：前置詞の格支配（2格・3格・4格支配） 3：前置詞の格支配（3・4格支配） 4：前置詞と定冠詞の融合形 5：分離動詞 6：非分離動詞 7：完了形 8：話法の助動詞 9：従属接続詞 10：zu 不定詞句 11：再帰代名詞と再帰動詞 12：動詞の三基本形 13：過去形 14：現在完了形 15：まとめと授業内テスト				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	次の授業で読むことになるドイツ語の文章について、予習として付属の CD を聴き、少なくとも一読はしておくこと。その際、必ず繰り返し「音読」に努めること。 また復習として、授業で読んだ文章の発音、及び単語・文章の意味、特に文法項目についてはしっかりと復習しておくこと。加えて、返却された課題、または小テストについても、必ず間違えていたところを確認すること。				
評価方法	最終試験 50%、及び提出課題の内容を 50%として評価する。ただし最終試験の実施が困難である場合には提出課題のみで評価をすることがある。 課題の未提出回数が提出回数全体の 1/3 を超える場合には E 評価とする。また提出課題も成績評価に加えるため、未提出回数が増えれば増えるほど、単位の認定が難しくなることは承知しておいてもらいたい。 なお、期限を過ぎての課題提出は一切認めないので注意すること。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、その次の授業までに添削する。その際、疑問・質問が書かれている場合に関しては、それに対する回答も加える。				
使用テキスト	中村修ほか『つながるドイツ語みっとりべ』（朝日出版社）				
参考テキスト・URL	独話辞書				
各自準備物					
実習費					
その他	語学力は学習時間に比例して伸びていくものである。そのため積極的な授業参加を望む。 語学学習に苦労はつきものであるが、できるだけ楽しくドイツ語を学んでいく機会を提供したいと考えている。 「ドイツ語Ⅰ」の単位修得が前提。				